

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

タイトル 食育体験学習の取組み

J A 名 西三河 (愛知県)

1 動機 (経緯)	<p>市内の恵まれた農業環境を活かして健全な食生活の定着を図るためには、子どもの頃から年間を通じた一連の農作業や食文化を体験することにより、地域の産物や食文化に対する理解と感謝の念を育み、日本型食生活の実践を促す必要があります。</p> <p>このため、J A と市内各地域の指導的な農業者が小学校と連携して農業体験学習の機会を提供することにより、子どもたちの家庭に日本型食生活の普及促進を図ることを目的としています。</p>
2 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A 西三河において、以下の農業体験学習に取り組んでいます。 ○ 「稲づくり体験学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 田植え、かかしづくり、稲刈り、ちゃぐりんの提供、収穫祭 (餅つき・おにぎり作り・巻きずし作り・押しずし作り) ○ 「野菜づくり体験学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 春野菜種まき、定植、春野菜収穫、冬野菜種まき、定植、冬野菜収穫 ○ 「家族『食・農』体験農場」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏野菜の定植、夏野菜の収穫祭、冬野菜の定植、さといも収穫祭、いちご雨避けトンネル設置作業、冬の収穫祭 (収穫物を利用したロールキャベツ・ケーキ作り)、畑の片付け
3 成果 (効果)	<p>意見交換会では報告された生徒の感想の中で、「指でつまんで田んぼに植えた種が、稲刈りには両手で握らなければならないほど大きく成長する」ことへの驚きや、こぼれ落ちた稲穂を集める指導員や職員の姿を見て、「一粒の米の大切さに気付いた」と発言する生徒が多数おりました。</p> <p>また、収穫祭では自分たちが作ったお米を自分たちで調理して食べるという経験を通して、給食のご飯が残ることが少なくなっているとも報告されています。「収穫したものを味わい、その喜びや農産物の良さを学び、米や野菜の好きな子どもを育成する。そして、作って頂いた人への感謝の心を育てる」という目的に対する成果が現れております。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>稲づくり体験学習においては、対象小学校を増やして取り組んで行きたいが、校区内で指導して頂ける農業者や実施できる水田が無く、実施の難しい小学校もあります。</p> <p>しかしながら、最終的には市内全小学校で取り組むことを目指しております。</p> <p>また、「家族『食・農』体験農場」では、年々申込者が増えている中、農場数の検討が必要になっております。</p> <p>食農体験学習を今後継続的に展開していく中で、参加いただいた家族や子ども達に、J A 事業を幅広くご利用していただけるように、取り組んでまいります。</p>